

証券市場新聞

1 第205号

日経平均株価

2万3303円32銭

▲161円77銭(前日比)

TOPIX

1696.67

▲12.27(前日比)

2019
11/18
月曜日

発行元 株式会社 証券市場新聞社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



医療機器関連の業績は好調だ

乱高下を経てNY更新しているが、市場は史上最高値をイテク系とともに上昇を牽引しているのが医療機器とライフサイエンスに絡む銘柄。トランプ大統領が就任した2017年1月以降、S&Pヘルスケア株指数は33%程度上昇しており、その中で新薬開発断

えでも新型の医療機器治療法が普及するうち治療など最先端の子治療など最先端のを行っており、遺産など政策面での支援を計る。2020年度の予算を2020年度会計に計上する。トランプ大統領は薬価引き下げを強く唱える一方で、革新的な医療機器開発のため医療機器関連の増(前年)と利益が急拡大、サイドベッドなどの新製品投入や臨床情

第2四半期好決算を発表

念などで株値下落が

10月上旬を底にニューヨーク市場と東京市場は大きく上昇、NY主要3指数は史上最高値、東京市場でも日経平均は年初来高値を更新した。今回の上昇では業績回復期待から半導体などのハイテク系が牽引したが、目立ってはいないものの、NY市場では医療機器とライフサイエンスセクターが好調な業績が支えになり上昇している。東京市場でも第2四半期決算では医療機器を手掛ける企業が好決算を発表しており、NY同様に好実態が見直される可能性がある。

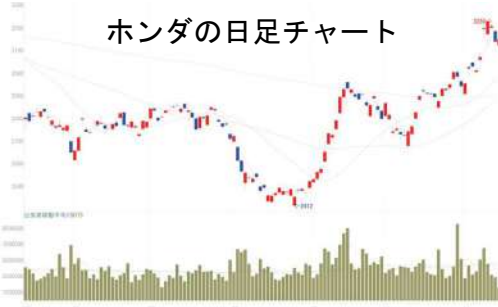
器のニーズは一段と高まりそうだ。そのような中で、東京市場でも医療機器関連の好決算が散見された。日本光電工業(6849)の第2四半期累計(4~9月)の連結決算

報システムの更新需要が貢献している。医療機器・設備を一括販売するシッパヘルスケアホールディングス(3360)も第2四半期累計は営業利益で65億円から100億8100万円(同60.9%増)へと大きく上振れした。決算発表後は利益確定売りに押されるなど、両銘柄とも実態が反映されておらず見直し余地は大きい。

日経平均日足チャート



ホンダの日足チャート



26億5000万円(前年同期比8・0%減)だったが、直近3カ月の7・9月は2201億3600万円(同2・6%増)と増益に転じた。同期は6900億円

ホンダが続騰

直近3カ月増益で自社株買い

週明け11日、ホンダ(7267)が続騰。20年3月期第2四半期累計の連結決算は、営業利益47

今週の動意銘柄

(前期比5・0%減)に下方修正したが、保守的な予想との見方で、3300万株を上限とした自社株買いを発表したこと

福島銀は提携報道

11日、福島銀行(8562)が一時ストップ高。SBIホールディングス(8473)と資本・業務提携すると複数のメディア

東芝系3社値飛ばす

12日、西芝電機(6591)、ニューフレアテクノロジ(6256)がストップ高、東芝プラントシステム(1983)も値を飛ばした。「東芝(6502)が、上場子会社4社の一部について、完全子会社化を検討」と報じられた。上場子会社4社について「東芝テック(6588)を除く最大3社を念

アで報じられ。NHKでは「SBIホールディングスは福島銀行に出資し、10%台後半の株式を保有する大株主となる方針」とし、「SBIが強みをもつ金融とITを融合したフィンテックを駆使して新たなサービスの開発やコスト削減にも取り組み収益力の強化を目指す」としている。

三井金は下方修正

12日、三井金属(5706)が大幅下落。20年3月期の業績予想について、通期連結売上高で5000億円から4770億円(前期比4・2%減)、営

急落のワンダ

11日、ワンダ(4680)が急落。20年3月期の連結業績予想について、最終利益を69億円から64億2000万円(前期比10・3%減)へ下方修正したことが嫌気された。国内事業は堅調ながら、米国事業が不振で、一部店舗で減損損失が発生する。

那須鉄営業益4・6倍

12日、那須電機(5922)が大幅高で連日の最高値。20年3月期第2四半期累計の連結決算は計画を上回り、営業

正直いいさんの株で大判小判

15日の東京市場は反発しました。前日までの続落の反動で買戻しに小高く始まった後は下げに転じる場面がありました。カドロー米国家経済会議委員長が米中貿易協議の第1段階合意について「取る」と発言するとの発表が株価指数先物や上海、香港市場のプラズ推移を導いて積極的な買い手控えられ、週末のな売却は手控えられ2万3000円レベルを力発揮する。かたちに

期待に海外展開のイーレクス

おむね堅調で、週末は追撃買いを入れていまは決算後のアナリスト向けの説明会でカンボジアの水力発電プロジェクト参画を契機に、今後様々な海外案件を検討していきたいと意欲を示したようです。花咲翁



シスサポ営業益3・7倍

13日、システムサポート(4396)が続騰。20年6月期第1四半期の連結決算で、営業利益1億7600万円(前年同期比3・7倍)と利益が急拡大した。物流業向け基幹システム更新案件、クラウドシステム導入案件などの受注が拡大した。

富士フイルムは急伸

直近3カ月17%営業増益

13日、富士フイルムホールディングス(4901)が急伸。20年3月期第2四半期累計の連結決算は、営業利益920億3900万円(前年同期比9.7%増)で着地したが、直近3カ月の7.9ヶ月期は549億2600万円(同16.7%増)と2ケタ超の増益だった。通期

ニチイ学下方修正

13日、ニチイ学館(9792)が急落。20年3月期の業績予想について、通期連結売上高3030億円を2986億円(前期

比3.7%増)、営業利益152億円を1

LINEは統合報道

14日、LINE(3938)がストップ高、Zホールディングス(4689)とソフトバンクグループ(9984)、ソフトバンク(9434)も買い進まれた。「ヤフーを展開するZホールディングス株式を4割超保有するソフ

33億円(同32.6%増)へ下方修正した。

トバンクとLINEの7割超保有する韓国ネイバーと月内にも基本合意を目指す」と報じられた。ソフトバンクとネイバーが折半出資で新会社を設立、ZHDの筆頭株主にならしている。

トリドル大幅増収益

14日、トリドルホールディングス

(3397)が急伸し、年初来高値更新。120年3月期第2四半期累計の連結決算は、売上高800億1700万円(前年同期比11.2%増)、営業利益58億4000万円(同32.9%増)と計画超かつ大幅増収増益となった。丸亀製麺のブランド再構築と浸透を目的としたマーケティングやコラボなどのが奏功している。

アルファクス4割減益

14日、アルファクス・フード・システム(3814)がストップ安。20年9月期の単独営業利益2億5000万円(前期比40.0%減)と大幅減益を予想した。先行投資負担が収益を圧迫。19年9月期は計画を上回り、4億1600万円(前期比2.8倍)と最高益を更新した。

三桜工業営業益2.2倍

週末15日、三桜工業(6584)がストップ高。20年3月期第2四半期累計の連結決算は計画を上回り、営業利益は28億7800万円(前年同期比15.0%増)と一転して2ケタ増益で着地、通期予想を26億円から45億円(前期比2.2倍)に上方

LINK&M上振れ期待

修正したことがポジティブサプライズ。15日、スプリックス(7030)が上場来安値更新。20年9月期の単独決算で、営業利益16億円(前期比41.6%減)と大幅減益を予想。新規開校関連費用や広告宣伝費をほぼクリア、上ブレ期待が高まった。

米10年債利回りに注目

転ばぬ先のテクニカル

先週の東京株式市場は6週間ぶりに反落となりました。10月4日安値から11月8日高値まで23営業日数で2315円上昇した相場は13日に5日移動平均線割れとなり、その後5日移動平均線が右肩下がりに転じてきました。また、新値3本足が陰転し、MACDもデッドクロス。騰落レシオは12日の142%でピークアウトしたようです。

ドル円は11月7日の109円48銭から1円程度円高進行し、5日移動平均線と20日移動平均線がデッドクロス。これは米10年債利回りが7日の1.966%から1.8%台前半まで低下してきたことに起因していますが、7日の1.803%で20日移動平均線にタッチしており、ここで調整一巡となるのかどうか。割れ込む場合はリスクオフ機運の高まりとともに米国株も調整入りとなりましょう。次の変化は21日である21日前後の調整予測です。

日々勇太郎

今週の動意銘柄

～決算情報～

新コスモス電機

イトアンド

半導体向けは好調維持 2Q減収益も通期増収益据置く

2Qは10.6%営業増益 羽根つき餃子1億7000万P突破

新コスモス電機（6824）の20年3月期の第2四半期（4～9月）連結決算は、売上高で135億6100万円（前年同期比1.8%減）、営業利益で9億7100万円（同25.8%減）、純利益で6億3700万円（同24.9%減）と減収減益となった。

家庭用ガス警報器関連ではLPガス用警報器が好調に推移したものの、国内での都市ガス用警報器が伸び悩んでいる。一方、工業用定置式ガス検知警報器関連では半導体業界向けガス検知警報器が好調に推移し、業務用携帯型ガス検知器も都市ガス向けなどが伸びている。

通期は売上高285億2800万円（前期比0.1%増）、営業利益27億6500万円（同2.1%増）、純利益17億6700万円（同3.51%増）と従来見通しを据え置いた。

イトアンド（2882）の20年3月期の第2四半期（4～9月）連結決算は、売上高147億7900万円（前年同期比4.2%増）、営業利益5億1100万円（同10.6%増）、純利益は2億2200万円（同57.1%増）と2ケタ増益となった。

食品事業では、主力商品の「大阪王将 羽根つき餃子」が、2014年8月に販売開始して以降、今年7月末までの累計販売数で1億7000万パックを突破し好調に推移。外食事業は50周年を記念するイベントを通じた大阪王将ブランドの認知度向上への取り組みが寄与している。

通期は売上高304億円（前期比4.2%増）、営業利益9億1500万円（同9.7%増）、純利益3億5500万円（同5.6%増）と従来見通しを据え置いた。

グルメ杵屋

近鉄グループホールディングス

計画上回り21%営業増益 2Q機内食大きく伸びコスト対策も

20年3月期通期は増額 第2四半期増収営業増益を確保

グルメ杵屋（9850）の20年3月期第2四半期累計の連結決算は計画を上回り、売上高200億7000万円（前年同期比1.5%増）、営業利益4億7800万円（同21.2%増）、最終利益3億4400万円（同2.2倍）と増収大幅増益で着地した。

関西国際空港のインバウンド搭乗客の増加効果が大きく、機内食の売り上げが大きく伸び、コスト対策の進展で各事業収益性が改善した。

下期のインバウンドの動向や天候要因が業績に与える影響が不透明として、通期については売上高411億9800万円（前期比0.4%増）、営業利益9億7900万円（同34.6%増）、最終利益4億8100万円（同45.6%増）と従来予想を据え置いた。期末一括配当は12円を継続。

近鉄グループホールディングス（9041）の20年3月期第2四半期累計の連結決算は、営業収益6134億2900万円（前年同期比2.0%増）、営業利益366億8800万円（同8.8%増）、最終利益210億8500万円（同1.8%減）で着地した。鉄道は利用客が伸び、マンション分譲も順調に進んだほか、旅行販売も好調で増収営業増益を確保した。

通期は営業収益1兆2590億円（前期比1.8%増）、営業利益660億円（同2.6%減）、最終利益360億円（同0.1%増）を予想。訪日外国人向けに百貨店売上高が伸長、鉄道も大型連休期間の旅客運輸収入が増え、前回予想から営業収益を100億円、増収効果に加え費用発生はずれ込みもあり、営業・最終利益を各々10億円引き上げた。

日本精線
(5659)

新製品開発など進める NSR20達成へ向け邁進

装置・機器メーカーの設備投資の中止・延期に加え、第2四半期に終了すると見ていた在庫調

売上高460億円目指す

日本精線（5659）はステンレス鋼線のトップメーカーで、ナスロン（金属繊維）などの高機能製品や高合金ワイヤなどの独自製品を供給している。

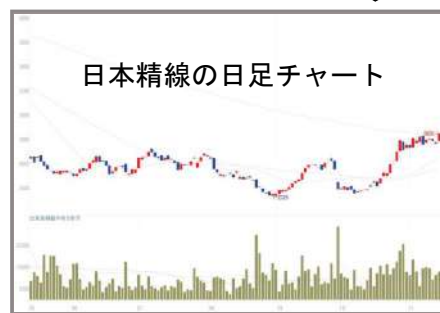
10月30日に発表した20年3月期の第2四半期累計（4月～9月）連結決算は売上高で172億300万円（前年同期比13.7%減）、営業利益は7億6000万円（同65.2%減）と減収減益となっている。主力のステンレス鋼線部門は、スマホなどIT関連をはじめとする高機能・独自製品の需要減と在庫調整などの影響により低迷。またステンレス鋼線市場全体の需要動向も減少傾向が続き、減産を余儀なくされた。金属繊維部門

特選銘柄

では、超精密ガスフィルター（ナスクリーン）が半導体製造

整が進まず、大幅減収となった。

通期は売上高350億円（前期比9.7%減）、営業利益18億円（同49.4%減）と従来予想を据え置く。2020年度（2021年3月期）を目標最終年度とする第14次中期計画（NSR20）では高機能独自製品の上弾力確保や新製品開発（次世代高機能独自製品の開発など）と新市場開拓、生産性向上と働き方改革等を基本方針に掲げ、目標最終年度の2021年3月期に連結売上高460億円を目指す。



イボキン

3Q減収ながら増益確保 廃棄物処理・再生は収益急拡大

イボキン（5699）の19年12月期第3四半期累計の連結決算は、売上高45億円（前年同期比7.4%減）、営業利益2億5100万円（同9.9%増）、最終損益1億7800万円（同35.4%増）と減収ながら増益を確保した。鉄スクラップの海外市況下落の影響で金属事業が伸び悩んだが、産業廃棄物処理、再生資源販売の環境事業は収益が急拡大、解体事業も堅調だった。最終大幅増益は前年同期に火災損失を計上していたため。

季節性で年末と年度末に売上高、利益が偏重する傾向があり、通期は売上高64億8700万円（前期比0.3%増）、営業利益4億500万円（同44.4%増）、最終利益2億7500万円（同23.5%増）と従来見通しを据え置き、期末一括配当は30円（前期27円）を予定。

フジコー

建物解体撤去費用を計上 第2四半期2%増収も赤字で着地

フジコー（3515）の20年3月期の第2四半期（4～9月）決算は、連結売上高で42億2900万円（前年同期比2.0%増）、営業損益で9000万円の赤字（前年同期4800万円の赤字）、最終損益で1億6700万円の赤字（同100万円の赤字）となった。

昨年発生 of 台風21号被害に絡んで本社南工場の一部建物を取り壊すことで、建物の帳簿価額と撤去費用を特別損失として、7733万4000円を固定資産解体撤去費用として計上。

これにより通期については売上高93億円（前期比5.2%増）、営業損益1億円の黒字（前期7300万円の赤字）と従来見通しを据え置くが、最終損益は従来予想の1億円の黒字から7000万円の赤字（同6億1900万円の赤字）へ下方修正した。

チャートから読む 騰落銘柄

ミロク情報(9928)



2900円前後での揉み合いが1カ月以上継続していたが、10月28日に2815円まで突っ込んだ後は25日、50線とも上抜き出直る動き。9月24日高値3060円突破なら本格戻りに期待。

BEENOS(3328)



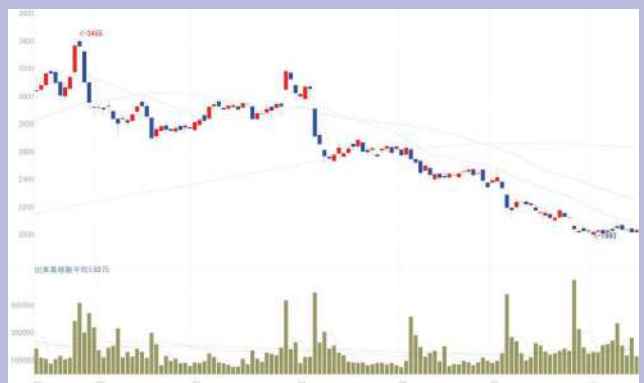
海外発送代行Eコマースの成長性は大きく、好決算発表を機に底値圏離脱。出来高急増で基調は強く、鋭角的に上昇してくる5日線を下値支持に、5月に付けた年初来高値1989円奪回から一段高へ。

OLC(4661)



10月9日に1万6980円の高値を付けた後に長期の下落基調続く。大規模投資プロジェクトへの期待があるものの、投資回収への不安高まる。5月14日の安値1万2324円あたりが下値メドか。

幸楽苑HD(7554)



5月に付けた上場来高値3455円で天井形成。週足陰転のあとは25日線に上値を抑えられ下値模索が続く。下値抵抗ラインの2000円で下げ渋るが、既存店売り上げ急減で収益懸念強く一段安を警戒。

※チャートは日足

潮流

外人投資家買い鮮明に

日経平均3万円は難しくはない



と先物の合計で5801億円の買い越しとなった。10月の1カ月間で海外投資家は現物を1兆1346億円を買い越した。4月の1兆6054億円の買い越しに次いで大きい。

現物と先物（225先物とTOPIX先物の合計でみると、外人投資家の年初からの売り越しは8月第2週（8/13～8/16）時点で3兆円を上回っていた。それが10月第5週の時点では、年初来でも1530億円の買い越しに転換した。11週間で3兆円超を買い越したことになる。さらに、裁定取引状況では11月8日時点で4097億円の売り越しとなっている。9月6日に1兆6945億円も裁定売残が積み上がっていたが、買戻しが一段と進んでいる。

例年、外人投資家は日本株（現物）を10～12月に買い越す傾向があるので、売り方の買戻しは今後さらに強まりそうだ。やがて、裁定残が買い越しに転じる時が来るだろう。過去、このような状況でTOPIXは約45%上昇したこともある。日経平均に置き換えると3万円を超える。

日経平均が3万円を達成することは決して難



11月第1週（5日～8日）の投資部門別売買状況では、外人投資家が現物

「緊縮財政」を維持している。11年間もの間、政府支出が全く伸びていない。だから、デフレから脱却できないのだ。日本全体が萎縮し「うだうだ」した状態が長年続いている。この閉塞状態から抜け出すには政府が

大胆な「政府支出」を行い、「積極財政」に大転換することだ。政府が「政策転換」すれば、日本の株式市場は様変わりするだろう。日本経済も強化され、景気の回復力が鮮明となり、日本の明るい将来像が見え始まる。企業や投資家も積極的に投資する。その時には日経平均は既に3万円を達成しているだろう。

自民党の甘利明税制調査会長は11月13日に、安倍晋三首相が策定を指示した経済対策は6兆円を上回る規模が必要だと主張した。2018年度補正予算と19年度当初予算の特別枠が合わせて約6兆円だったと指摘し「昨年と経済環境を比較すれば不確定要素が多い。確実にこれを上回る経済対策が必要だ」と強調した。「積極財政」への始まりの予感がする。

潮流銘柄はCKD（6407）、カチタス（8919）、SBSホールディングス（2384）。



岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク代表取締役）のプロフイ

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から

ら優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

「積極財政」への大転換を



敏腕先物ディーラー ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社

の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

先週まで約70%の企業が3月期の中間決算を発表したが製造業を中心に減益となる企業が多く、今3月期の業績は全産業ベースで約5%の減益となりそうである。日経平均のEPSに直すと約74円のマイナスとなる。週末時点の日経平均のPERは14倍で、NYダウよりかは割安かもしれないが、DAX指数と比べると割安とは言えなく

上昇基調のなか 日柄調整続く 突っ込み買いで対処

先週の日経平均は週足で見ると約88円の下落となり、高値での日柄調整となった。

11月のSQ値(2万3637円93銭)に一度もアタックすることなく推移していたので、週末には一旦2万3000

円割れも警戒されたが、米政府高官の「米中協議は合意に近付いている」との発言を受け金曜日は反発して引けた。相変わらず米中協議関連の発言で右往左往する相場である。企業業績のほうも予想通り厳しい結果となっている。

先週まで約70%の企業が3月期の中間決算を発表したが製造業を中心に減益となる企業が多く、今3月期の業績は全産業ベースで約5%の減益となりそうである。日経平均のEPSに直すと約74円のマイナスとなる。週末時点の日経平均のPERは14倍で、NYダウよりかは割安かもしれないが、DAX指数と比べると割安とは言えなく

なってきた。しかし、現在の相場は中央銀行などが様々な金融緩和を行い、市場にお金を放出して金余り現象を作っている「金融相場」である。金融相場は「不景気の株高」ともいわれ、空売りを踏み上げる相場でもあり「需給相場」ともいわれる。企業業績よりも中央銀行の動向や需給バランスによって相場は大きく動く。

先週までで海外勢は6週連続日本株を買い越している。2017年以来であり、腰の突っ込み買い方をしているようだ。相場に影響をもつ某欧州系証券の買い建玉を半分程度売却したようだが、売りに回ったわけではない。うなので、彼らがさらに買い直せば、2万4000円台も見えてきそう。チャートの目線には下降する5日線(2万3323円)を割って引けているので、まだ戻りは重たそうである。転換線(2万3326円)も引けて割れてきているので、目立った材料がなければ週初は調整が続こう。

8日起点とする上値トレンドラインは2万3420円処、8日の高値、11月SQ値(2万3637円93銭)が上値メドとして意識されそう。一方、下値は窓埋めの2万3008円、割れてくると上昇する25日移動平均線(2万2780円処)が下値として機能しそうである。突っ込み買いで対処したい。(ハチロク)

独DAX30の日足チャート



先週まで約70%の企業が3月期の中間決算を発表したが製造業を中心に減益となる企業が多く、今3月期の業績は全産業ベースで約5%の減益となりそうである。日経平均のEPSに直すと約74円のマイナスとなる。週末時点の日経平均のPERは14倍で、NYダウよりかは割安かもしれないが、DAX指数と比べると割安とは言えなく

日経225先物日足チャート



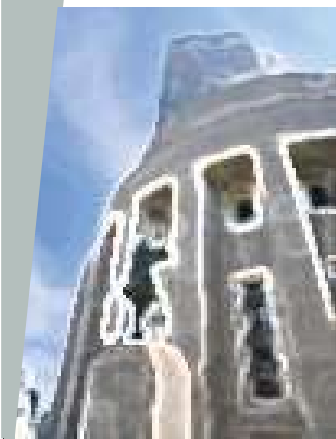
先週まで約70%の企業が3月期の中間決算を発表したが製造業を中心に減益となる企業が多く、今3月期の業績は全産業ベースで約5%の減益となりそうである。日経平均のEPSに直すと約74円のマイナスとなる。週末時点の日経平均のPERは14倍で、NYダウよりかは割安かもしれないが、DAX指数と比べると割安とは言えなく

星野三太郎の株街往来

～カリスマ経営者～

この数週間、聞かれることが多かったのがソフトバンクグループ（9984）の経営動向。WeWorkの公開中止を契機に株価が下落し、ネット上のブログ、週刊誌や夕刊紙などでは「倒産」という見出しが相次いだ。ソフトバンクGの経営危機説は今に始まった話でなく、新たな事業や投資を始めるたびに大きなリスクを指摘する報道が見られる。今回はWeWorkの失敗が目立っているが、英国の半導体開発メーカー・ARMの買収は成功事例だったし、無謀とも言われた大幅キャッシュバックで話題になったPayPayも今ではバークロード決済のトップランナーになった。会社の実態と将来像を一番理解しているのは社長の孫正義氏だけであり、それを株主である投資家が信じるか、そうでないかだけだろう。

株価は決算発表での孫氏の会見を受けて戻り動きになったが、今回の失敗を教訓に再度浮上すれば、評価はこれまで以上に高まるかも知れない。ただ最大の不安はカリスマ経営者の後継者が存在しないこと。これはソフトバンクGに限ったことではないが、チャレンジャー精神を持った経営者が増えしてほしいものだ。



企業レター

10年ぶりに完全一新 ユニバーサル・クリスタル・クリスマス



ユニバーサル

ユニバーサル・スタジオ・ジャパン（USJ）は、11月13日にパーク史上最大規模で10年ぶりに完全一新した冬の期間限定イベント



新ナイトショー「クリスタルの約束」

では、クリスタルの輝きに満ち、心まで清らかなる感動の新ナイトショー「クリスタルの約束」を初公開。ショーのクラ

「ユニバーサル・クリスタル・クリスマス」の開幕セレモニーを開催した。日没後、グラマシーパーク内特設ステージ



関ジャニ∞が開幕宣言！

「ユニバーサル・クリスタル・クリスマス」が記念すべき初点の瞬間を迎えた。ショー上演後には、「クリスタル・クリスマス・アンバサダー」に就任したの安田章大さん、横山裕さん、大倉忠義さん、丸山隆平さん、村上信五さんの「関ジャニ∞」が全員揃って登場。「関ジャニ∞」メンバーは、この日のために招待され、心までキラめく新体験をした800名のゲストとともに、クリスタルの輝きに包まれる感動のナイトショーと、パーク初のギネス世界記録「ダブル認定」のツリーが楽しめる「ユニバーサル・クリスタル・クリスマス」の開幕を宣言。

メンバーは体験したばかりのナイトショーやツリーなどクリスマスな新プログラムについて、感動さめやらぬ様子で語った。

相場見通し

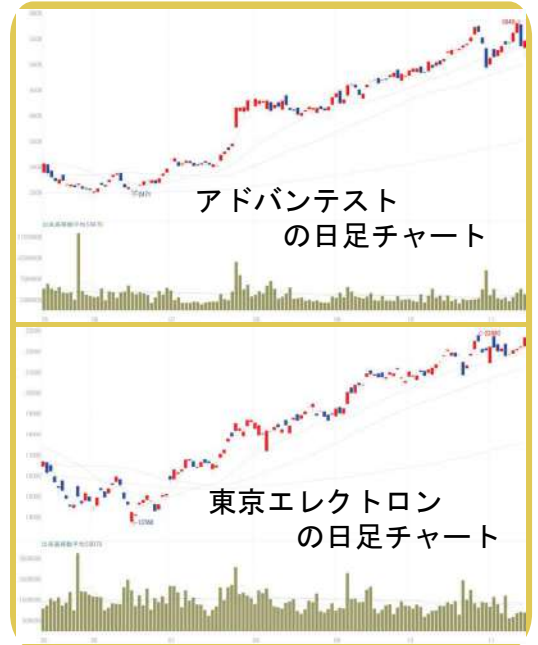
記者の視点

底堅い動きを想定

半導体主力は出直るか？

小安い動きで終始していたが、前引け直後から先物で売り仕掛けが入り大きく値を崩した。上海指数がプラスを維持していたことを考慮すれば、海外ヘッジファンドは移動平均線と乖離していたことから、先物で売り仕掛けをし易い東京市場をターゲットにしただけに、加えて注目に値する動きを想定したい。個別では決算発表が一巡したことでアナリストによるレーティング変更銘柄が注目を集めている。

先週の東京市場は調整色の強い展開になった。中国の経済指標悪化や香港情勢の緊迫化などが売り材料にされたと伝えられているが、14日の動きを例にとると相場は前場は米10月住宅着工件数、21日に米11月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数など経済指標の発表が予定されているが、基本的には米中交渉の報道に一喜一憂する展開だろう。先週に見られた先物での売り仕掛けも現状では短期的な動きのようだが、日経平均は2万3000円を割れず、底堅い動きを想定したい。



当面のスケジュール

- ・ 15日 米10月小売売上高 (22:30)
米10月鉱工業生産・設備稼働率 (23:15)
- ・ 18日 米政府によるファーウェイへの制裁措置一部猶予期限
- ・ 19日 米10月住宅着工件数 (22:30)
- ・ 20日 10月貿易統計 (8:50)
10月訪日外客数
10月29・30日開催のFOMC議事録
- ・ 21日 9月全産業活動指数 (13:30)
米10月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数 (22:30)
米10月CB景気先行総合指数、米10月中古住宅販売件数 (22日 0:00)
- ・ 22日 10月消費者物価 (8:30)
G20外相会合 (~23日 名古屋)

半導体ではアドバンテスト(6857)や東京エレクトロン(8035)などの半導体主力が調整一巡から出直ってきた。これら銘柄のレーティングや業績見直しにも注目したい。

編集後記

魚介類の旨い季節を迎えた。秋に旬を迎える魚はサシマやニシン、カンパチ、イシダイはじめ60種余り。ズワイガニやイセエビ、アオリイカ、ホタテガイなどもこれからの時期、外せないのが「土瓶蒸し」だ。松茸は中国産でいい、初夏とは違う脂のたっぷり乗ったハモの濃厚な味わいと弾力のある歯触りがたまらない。常温の酒で一杯やるのを楽しみにしている。

さて、東京市場は意外高へ進んだが、指数主体の動き。個別で値幅が狙える個人にとつての旬の相場はまだ来ていない。

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはいくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。